

# CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	浜松倉庫株式会社 都田流通センター	階数	地上3F
建設地	静岡県浜松市北区大原町440, 441,	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	20 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,080 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年4月 予定	評価の実施日	2023年11月16日
敷地面積	21,912 m <sup>2</sup>	作成者	安井孝浩
建築面積	5,185 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	14,229 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.6**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.6

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.0

**LR のスコア = 3.6**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.2

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.4

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> これは、CASBEE静岡 2021年版 ver1.0による評価である。		<b>その他</b> 浜松倉庫株式会社は、倉庫・運送事業をベースに総合物流事業を行っています。また、今回、「グリーン経営」の取得を予定しています。
<b>Q1 室内環境</b> ※本建築物には事務所部分がないため、対象外である。	<b>Q2 サービス性能</b> 階高平均4.26、2階の壁長さ比率は0.09で、物流・倉庫の空間にゆとりを持たせた。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 外構緑化指数27%になるよう、敷地境界側に緑地・植栽を設けた。また、敷地の64.5%分の空き地を確保し、敷地内の温熱環境が向上するよう配慮した。
<b>LR1 エネルギー</b> BEIm=0.43と、省エネ基準を大きく上回るような電気設備設計をした。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 手洗い水栓は自動水栓を、便器は節水型便器を採用し、節水に努めた。 また、断熱材は、いずれもODP・GWPなしの材料を採用した。	<b>LR3 敷地外環境</b> 隣等間隔指数1.19で、風の回復がしやすい配置とした。 また、廃棄物処理抑制抑制について、 ・廃棄物排出量管理表を用いてゴミの量・種類を集計 ・フリースペースに分別スペース・分別容器回収ボックス設置予定

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	浜松倉庫株式会社 都田流通センター 二期工事	BEE	1.2	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度				
重点項目	得点 <sup>※</sup> /満点	取組み度	評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.9 /5		ふつつ	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.8 /5		がんばろう	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.5 /5		ふつつ	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.5 /5		がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	
			ふつつ 3 点以上	
			がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目					
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。							
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)</b>		得点			3.9		
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④給排水管に耐用年数40年の材料を使用。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤外構緑化指数27%分の緑地を確保。 ⑥空地率51.9%で、風の通り道を確保。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨BELm=0.43と、省エネ基準を大きく上回るよう設備設計をした。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水型便器および自動水栓を採用 ⑫内壁下地がLGS+PB若しくは外壁表しのため、分別しやすい ⑬グラスウール、ロックウール共にOWP・GWP=0</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭ライフサイクルCO2が参照値の86% ⑮隣等間隔指数1.19で、風の回復しやすい配置である</p>	Q-1	2	2.1	2.2	①	外皮性能	
		Q-1	3	3.1	3.13	②	昼光利用設備
				3.2	3.2.1	③	昼光制御
		Q-2	2	2.2	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数
			2.2.2	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔		
			2.2.3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		
			2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔		
			2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔		
			2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔		
	Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出	
		3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上	
	LR-1	1			⑦	建物外皮の熱負荷抑制	
		2			⑧	自然エネルギー利用	
		3			⑨	設備システムの高効率化	
		4	4.1		⑩	モニタリング	
			4.2		⑩	運用管理体制	
	LR-2	1	1.1		⑪	節水	
			1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無	
				1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無	
		2	2.1		⑫	材料使用量の削減	
			2.2		⑫	既存建築躯体等の継続使用	
			2.3		⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用	
			2.4		⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
			2.5		⑫	持続可能な森林から産出された木材	
			2.6		⑫	部材の再利用可能性向上への取組み	
		3	3.1		⑬	有害物質を含まない材料の使用	
			3.2	3.2.1	⑬	消火剤	
				3.2.2	⑬	断熱材	
				3.2.3	⑬	冷媒	
	LR-3	1			⑭	地球温暖化への配慮	
		2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善	
<b>"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)</b>		得点			2.8		
<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰便器は節水型器具を採用。 ⑰電気・通信設備は、浸水の危険性が内容に設備設計をした。</p>	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性	
				2.1.2	⑯	免震・制振性能	
			2.4	2.4.1	⑰	空調・換気設備	
			2.4.2	⑰	給排水・衛生設備		
			2.4.3	⑰	電気設備		
			2.4.4	⑰	機械・配管支持方法		
			2.4.5	⑰	通信・情報設備		
<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)</b>		得点			3.5		
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑲階高平均4.26、2階の壁長さ比率は0.09で、空間のゆとりを確保した。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑防犯カメラを設置し、防犯性に配慮。</p>	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画	
		3	3.1	3.1.1	⑲	階高のゆとり	
			3.1.2	⑲	空間の形状・自由さ		
	Q-3	3	3.1		㉑	地域性への配慮、快適性の向上	
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)</b>		得点			2.5		
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤外構緑化指数27%分の緑地を確保。 ⑥空地率51.9%で、風の通り道を確保。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮隣等間隔指数1.19で、風の回復しやすい配置である</p>	Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出	
		2			②	まちなみ・景観への配慮	
		3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上	
	LR-2	2	2.5		⑫	持続可能な森林から産出された木材	
	LR-3	2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善	